



# 発掘 文学の宝



今回は特別編として、熊本県の令和6年度地域づくり夢チャレンジ推進補助金を活用した事業\*で、新しく制作した観光パンフレット「天草れいほく文学散歩」をご紹介します。

このコラムは今後も継続しますので、引き続きお楽しみください。

※苓北の「文学の宝」発掘・発信事業

企画／文 ドットワークス 下川嘉奈

このパンフレットは「文学」に特化し、さらに苓北町の美しい風景と、残された文章を一瞬で読めるフォトブック形式となっています。

この事業では、苓北町ならではの「宝」を発掘する中で「文学」という大きなテーマを掲げて約半年間に渡り調査を行い、観光パンフレットを制作しました。

## コンセプト

持ち歩きやすい  
A5サイズ  
表紙・裏表紙入れて  
全20Pの冊子です  
  
(一社)天草れいほく観光協会(☎31-1136)で  
無料配布しています。  
(数量限定)

## 【天草れいほく文学散歩】



森写真館：森 秀貴さん撮影  
「旧九大臨海研究所と富岡」

この「食べる」の三要素が必須となっています。苓北町には素晴らしい地域資源がたくさんありますが、それを観光要素として活かさきれていないことは否めません。それでも、流れる車窓や徒歩での散策中に、感動的な美しい風景をあちこちで見ることが出来ます。季節や天気、時刻によってさまざまな表情を見せる海の

冊子の後半に、自由に記載できるページを設けました。現代の「観光」は、多くの人の目的として、「観る」「買う」「食べる」の三要素が必須となっています。苓北町には素晴らしい地域資源がたくさんありますが、それを観光要素として活かさきれていないことは否めません。それでも、流れる車窓や徒歩での散策中に、感動的な美しい風景をあちこちで見ることが出来ます。季節や天気、時刻によってさまざまな表情を見せる海の

## 自分の中の言葉に出会う旅

文章のイメージとリンクするものとして、現在の風景と、昔の苓北町の写真を採用しました。古い写真については、森写真館の森秀貴さん(故人)が撮影されたものをお借りしています。また、料理の再現画像では、くまもと食の名人である松本恵子さんにご協力いただきました。

## 散策しながら文学を楽しむ

調査により、多くの文豪の足跡とともに、その残された文学作品を発掘しましたが、今回のパンフレットには苓北町との関連の高さや、知名度、さらに著作権などを考慮し選定しました。また、表紙に作者の名前が掲載されていない場合もありますが、スマートフォン時代の昨今、興味を持った人々が、自分で調べて知識を得るという楽しみも持っていただけだと思います。

## 現代と昔の写真を掲載

絶景。まさに、それこそが苓北町いちばんの、観光の宝であると思いました。人は心が動いたとき、何かを思い、言葉が生まれます。司馬遼太郎が「天草は旅人を詩人にするらしい」と書き残したように、多くの文豪たちもきっと、そうだったに違いありません。

近年、ジャーナリング(書く瞑想)が少しずつ知られるようになり、頭に浮かんだ事を自由に書き記すことで、自身の内面に向き合いストレスの軽減効果があると、若い世代から広がりを見せています。苓北町を歩き、風景と文学でリフレッシュする旅人が一人またひとりと増えることを期待しています。

最後に、本事業における調査および冊子制作にご協力いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

